

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備と、必要な人材の確保に努める。
- ・『小1プロブレム』に対する理解を深め、小学校へのスムーズな接続と、アプローチカリキュラムの計画的な導入による教育の質の向上を図って行く。
- ・引き続き、安全な保育環境の整備と見直し、事故・ケガの防止に最大限努める。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）を保育者がよく理解し、日常の保育の中で積極的に「体作り」に取り組んで行く。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝える。難しい状況下ではあるが出来る範囲で、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を設け関わられる活動をして行く。また、引き続き「留萌」の良さを子ども達に伝え、体験を通して感じる機会を積極的に作っていく。
- ・「いのちの尊さ」を伝える体験型保育や、音楽鑑賞・芸術鑑賞などの情操教育の機会も内容を吟味しながら継続して行っていく。
- ・長引くコロナ禍が「当たり前」になりつつある中で、行事や保育の見直しや、新しい形での実施を模索しながら、コロナ禍の経験を活かした準備や練習、効率よく行うための工夫にさらに力を入れて行く。
- ・子育てに対する保護者の悩みや不安を真摯に受け止め、一緒に考え、子ども達の健やかな成長の手助けとなれる様、体制を整えていく。
- ・園内の資源（保育者一人ひとりの得意分野や能力）を活用し、計画的に園内研修に取り入れながら、保育者間の保育技術の共有や継承、連携強化の徹底に努める。また、リモート研修等を有効に活用し、保育者の専門性の習得、園全体の保育の質の向上をめざす。
- ・働き方改革を推進させる上で、職員の勤務体制の見直しや職場内の働き方の問題点を検証し、職員が働きやすく、やり甲斐のある職場環境作りを目指す。また保育者一人ひとりが、心に余裕を持って保育にあたることで、子ども達に良い影響を与えることが出来る様に、繰り返し見直しをしながら進めて行く。
- ・預かり保育を利用する子どもの増加に伴い、保護者が安心して子どもを預けられるよう、担当職員の増員などの環境整備を図る。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
<p>1 保育の計画性</p> <p>保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。</p>	<p>昨年5月コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことを受け、以前のような保育に戻す取組みも進めてきたが、依然コロナウイルスの感染やインフルエンザなどの感染症が続いている中で、急遽予定の変更などがあった。しかし、何でも中止にするのではなく、出来る限りの対処と感染予防を講じて実施する方向で職員全員が協力し、対応する事が出来た。その様な状況下でも、出来る範囲で子ども達が楽しく園生活を送れる事を心がけ、工夫しながら取り組む事も出来た。</p> <p>また、一人ひとりの子どもの心に寄り添い、気持ちを受け止め、安心して生活できる様に配慮した。担任と補助教諭間の情報共有の徹底不足に関しては連絡ノートの活用も確実に伝わるようにより改善は見られたが、勤務時間の時差によるずれ違いなどでまだまだ充分とは言えない状況ではある。</p> <p>保育環境の構成では、安全面での配慮は見られたが、子どもたちが主体的に遊べる環境構成には、満足できるものではないとの反省が上がっている事から、今後は子ども達の意見も柔軟に取り入れながら、環境構成に力を入れていく必要があると思われる。</p> <p>本園の教育の柱となっている宗教教育の取組みに対して、週一回訪問する聖堂でのお祈り、主任司祭や園長からの宗話の時間は、心を落ち着かせる場として有効でありキリスト教理念を継承していく上でも、今後も継続してほしいという意見が多くあった。</p>
<p>2 保育の在り方、幼児への対応</p> <p>安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。</p>	<p>マスクの着用は、5類に引き下げられた事、また夏の記録的な猛暑の中も柔軟に対応していたが、後半からのインフルエンザの流行や、コロナウイルス感染症の度々の流行により3学期からは子どもたちにマスクの着用をお願いする形になってしまった。</p> <p>また、保育中や自由遊び時の事故やケガの発生は、今年は少なくこれまでの経験が生かされてきていると思う。しかしながら、ほんの一瞬に起こってしまう子ども同士トラブルやケガ、予測のつかない行動に対する対応の甘さが時折見られた。「ヒヤリハット」に該当するような事例もあったことから、今後も遊具、設備等の安全管理や子どもたちの日常生活の様子を把握し、適切な対応をしていく必要がある。</p> <p>個々の園児の発達の姿や課題、保護者への相談・報告等について、職員間の情報を共有してきめ細かな対応を心がけた。</p> <p>預かり保育は、保育日、長期休み期間、また行事後の振替休日、臨時休園日などにも行い、保護者のニーズに対応出来るよう実施した。担当保育者を増やしきめ細かい配慮を心がけた。</p>
<p>3 保育者としての資質</p> <p>保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<p>どの職員も愛情を持って子ども達に接し、自分自身も保育を楽しんでいるという回答が多かった。また、子ども達の良き手本となる様な言動を心がけ、日々子ども達に誠心誠意関わっている様子も覗える。ただ、一人ひとりの保育の専門性や資質の向上、キャリアアップの面では、保育雑誌や、インターネットでの情報が主となり、保育のマナー化や、新しい事にチャレンジする姿勢が希薄になってきているように感じる。</p> <p>また、保育者間の連携では、行事などの進め方に対して、行事計画を共有し行ってきたが、日常の保育の中では不十分なところがあり、「報告、連絡、相談」の職場における基本的なマナーが出来ていないことが度々あった。補助教諭との連携に対しても、保育のサポートだけではなく、それぞれの得意分野、技術を保育に生かせるような適材適所でのアドバイスを諮って行く必要があると感じる。</p>

<p>4 保護者への対応 及び 家庭との連携</p> <p>園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>保護者の要望を受け、今年度から緊急連絡はメールから公式 LINE に切り替え、ほぼ100%保護者に伝わっている。</p> <p>行事後のアンケートの回答結果からも、保護者の園への信頼・理解は概ね得られていると思われる。保育者と保護者との関わりも良好と思われるが、電話での対応や文書でのお知らせなど苦手意識がある職員もいる。園からの情報提供は、印刷物が主になっているが、今後 SNS を使った発信も取り入れていくことも検討していく。インスタグラムの配信は、日々の保育の様子をスピーディーに保護者に伝えることが出来、保育理解や安心に繋がっていると思われる。保育や子どもの様子などに関しての保護者からの問い合わせや、連絡事項には迅速な対応が必要となるが、担任だけのやり取りで終わってしまい、職員全体に情報が共有されていない場合もあったため徹底して行く。</p> <p>また、深刻な事案に対しては担任だけではなく、必ず管理職も同席し、園の考えや提案をしっかりと伝えられる様に、また、具体的な質問等にもその場で回答できるように体制を整えて対応している。</p>
<p>5 地域社会との 連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>地域との関わりを以前のように少しずつ持てるよう心がけた。「ちゃいるも」の訪問や、神居岩公園の花見、増毛町の果樹園でのサクランボ狩りやリング見学等以前のように実施できた。年長児のウキウキ思い出保育のプログラムに小平町の畜産農家の見学を取り入れ、留萌管内の施設訪問を積極的に取り入れる等、子ども達が地元の特色に興味や関心を持つ機会の提供を心がけた。就学に向けて学校にも訪問し一年生との交流も行えたが、高齢者施設への訪問は感染症の予防の観点から実施には至らなかった。スムーズな就学への移行の取り組みとして給食体験は給食センターの協力により月2回の実施により、給食にも慣れ一定の成果が得られた。子育て支援に関しては、遊びの場として年齢を問わない園舎開放日を開設し地域に解放した事業をとりいれた。また、今年度は年長児が国道での交通安全旗の波作戦への参加や冬の交通安全運動の取り組みでマグネットシートの作成や出陣式に参加したことは子どもたちにとっても交通安全意識を高める良い機会となった。</p>
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>研修に関してはハイブリット（対面とリモート併用）が主流となり、参加しやすくなった利点はあるが、公開保育や実技講習、対面式の研修会に向く機会が減り、実際の保育を見学したり、研究協議での生の声を聞く機会は少なくなった。しかし、以前の様に時間を割いて、遠くの研修を受けに行く事に比べ、リモートで参加する事の利点も多く、今までは参加していなかった内容の研修にも、積極的に参加する事も出来た。しかし、各自の専門性を高めるための研究は、具体的な研究目標を明確にすることが出来ておらず、自ら進んで専門性のある研修に取り組む姿勢が感じられず、今後は時間を割いて取り組む必要性を感じた。</p>
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<p>園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。感染症・伝染病等の発生時には、緊急速報として随時状況をお知らせし保護者に注意喚起を促すようにした。また、昨年度の学校評価の結果や危機管理マニュアルは、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。また、日常の保育の様子や園児のみの行事の様子など今年度もインスタグラムでの配信を行い、多くの保護者が閲覧しており、良い評価をいただいている。未就園児対象のちびっこ教室は、各幼稚園の「満3歳児保育」が定着してきたことや、保護者（母親）の就労が増加している事から、園児の弟妹であっても低年齢から保育園に通う子どもも多く、人数は減少傾向にある。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）の取り組みとしては、引き続き宗教指導の司祭による月に一度程度の「宗話の時間」を実施している。また司祭不在の週には、園長が宗話を行い一層の心の教育に力を入れている。司祭による保護者対象のお話し会（月一回程度）も、保育参観との抱き合わせで引き続き行っているが、残念ながら参加者が少なくなる傾向がある。 ・特別な支援を必要とする子どもだけでなく、全ての子ども達に目が行き届く様、必要な人材を確保し、全てのクラスに補助教諭を配置しきめ細かい保育を行えるよう努めた。
--

・小学校へのスムーズな接続に関しては、スタートカリキュラムを見据えて、幼稚園のうちから接続を意識した保育を取り入れるように計画しているが、十分とは言えず、今後はアプローチカリキュラムを具体的に明確化し、保育に組み込みながら計画していく必要性を感じた。

・すべての子どもたちに目が行き届く安全な保育環境の整備は、園舎構造上の問題もあり（二階建て）が、一定数の保育者の確保により人員を配置し強化してきているが、突発的な事故やケガ、また子ども同士のトラブルによるケガ（叩く、噛む…等）は日常的にいつ起きるか予測できない事ではあるので、日頃から子どもたちの様子を把握し、今後も職員全員での見守り、事故防止に努めていくことが重要であると思う。

・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）の改善のために、今年度も外部体育講師による指導を中心に実施する中で指導の仕方や効果などを検証し幼児期に必要な運動について学ぶことが出来た。

・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝える事が難しい状況下ではあるが、働く人々を知る機会を設けた（勤労感謝の職場訪問等）。また「留萌市および留萌管内」の良さを子ども達に伝え、体験を通して感じる機会として、園外保育などの機会を通じ、「ちゃいるも」の訪問や遠足に神居岩公園のアスレチック体験や船場公園を利用した。年長組のウキウキ思い出保育のプログラムに、小平町の畜産農家の訪問を新規に取り入れた。しかし、留萌には公共施設をはじめ、海上保安部や一次産業もあるので今後積極的に留萌を知る機会を作っていくことが必要と感じた。

・芸術鑑賞は人形劇を鑑賞し、大道芸や昔話「ぶんぶく茶釜」の人形劇を実施し楽しい時間を過ごすことが出来た。

・コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染症の予防などはその都度、地域の状況などを鑑み保護者に対しても逐次情報を提供し、感染が拡大しないようご協力いただいた。

・各種の研修を計画的に行ったが、リモートでの研修が多かったため、実技研修や公開保育を見学する機会が少なかったのが残念だった。個人研究目標の設定や、自ら研修に参加し専門性を習得できる機会を増やし、園全体の保育の質の向上を目指す研修計画の作成が必要と感じた。

・職員間の連携強化、情報共有の徹底を図るための方策を ITC などを取り入れ充実させることが重要であると感じた。

・職員の働き方改革を推し進めるよう努力はしているが、行事前の残業や持ち帰りの業務は減らない現状である。行事等の取り組みに対して、もう一度精査し個人の負担を減らす効率的な業務の見直しを図る必要性を感じた。

・預かり保育に関しては、就労する保護者のニーズに合わせ、お盆休み、振替休日、臨時休園日にも行った。利用する子どもは少なかったが今後も取り入れたい。また、職員の増員を図り、利用する子どもが園での生活が引き継がれるよう、きめ細かい保育を提供できるよう取り組んだ。

5. 学校関係者の評価

1. 『保育の計画性』に関しては「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

「コロナ感染症やインフルエンザが流行期中感染対策を行いながらなど、できる限り対処をして進めていただきありがたかった」「先生方の工夫のおかげでやれることも増え子どもたちに笑顔がもどったように感じます。」「季節に応じた作品や歌あそびなど子どもたちの発達段階に合わせた内容、興味関心に基づいた保育をして下さり感謝しています。」「感染症が流行する中情報を素早く提供し保護者に注意喚起を促すなど良い対応だった」「園で一貫したルールの基盤があることが感じられた。」

また、宗教教育について「教育目標で述べられている『おいのり・しんせつ・がまん・ありがとう』は子どもたちにもわかりやすい表現で伝えており、基本となるキリスト教の精神と理念に則ったものだ」と評価している。手を合わせて祈ることができる子どもたちの姿は、ありがたく感じている」「家庭で地震や災害などをニュースなどで触れるとき遠くの事だからと無関心やむやみに怖がるというのではなく“祈る”という形でその事象に向き合う姿に、目には見えない大きな力を信じる心や、思いを寄せるという道徳教育ではたどり着かない奥深い愛の姿が芽生えていると感じます。家庭でも育てていきたいものではありませんが、園で受け継がれていくことを望みます。」との意見をいただいた。環境を構成する上で、「今後子どもたちの主体性が伸びることを期待する」「子どもたちの好奇心や発想が形に出来、遊びを深められるような自由度が加わるとさらに“主体的”な遊びにつながるのでは」また、「一人一人のお子さんのニーズに応じていけるよう体制や環境の工夫を園全体で考え取り組んでいくことを期待する」と言った提案もいただく。一方で、「子どもの心にもう少し寄り添って欲しかった」「年長児のお泊まり保育がなかったことが残念でした。」などの意見があった。

2. 『保育の在り方及び対応』に関しては概ね「満足」の評価をいただいた。

マスクの着用においても「今後も必要性がある。感染症の流行期には着用を続ける」との意見がありました。また、「特別な支援を必要としているお子さんと先生との関わりを見て周りの子ども良い影響があると思う」また、預かり保育に関して「柔軟な対応（前日、当日受付）とても助かります。」「預かり保育が振替休日や臨時休園日に開設されていることは働く親にとって安心感がある」「始業日、終業日の通常保育はどの家庭もありがたいと思います。」など肯定的な評価をいただく。

また日常の保育の中で、「子どもが困っている時には対応してもらっている」「保育中の子ども同士のトラブル、怪我、お弁当の事、気になる様子などについては、担任あるいは補助の先生が手紙やお迎えの時に説明があり安心と信頼があります。」「細かい対応に感謝している」などの評価の反面、「子どもの得意、不得意を把握し、出来るように伸ばして欲しい」「良い事も、悪いことも自分のクラスの子どもだけではなく、他のクラスで起こったこともその日のうちに共有するようにしてほしい」「園児一人一人の目標や計画が伝わりづらいため家庭でどのような事に力を入れ園と連携を取れば良いか分からない。」などの厳しいご意見も見られた。預かり保育について「働いていない親も気軽に預かり保育を利用できるようにしてほしい」との要望もあった。

3. 『保育者としての資質』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

それぞれの保育者に対して「子どもたちへの愛情はとても感じます」「子どものことをよく見ていただき、こちらが気になることを聞いても丁寧に対応してくれていて安心することが出来た。」「子どもたちの個性も受け入れていただき見守ってもらっていると感じています。」「歌や製作のアイデアなど新しい試みも有りマンネリ化していないのが良かった。」「先生方の個性が伸び伸びと表現されて良いと思う。」「縦割り保育（わくわく保育）などで普段関わることのない子や先生に関わることは相互にとって良い事だと思う。」との評価をいただく反面、「先生同士の連携をもっと密にしてもらいたい」「他のクラスにも目配りをして些細な事でも職員間で共有してほしい」「発達面で気になる子や、自身の子に気になる部分があったとき、もう少し支援先などに繋げてもらえたらよかった。」「得手、不得手に差が出るような手作業について、指導の仕方が先生によって違う場合があるので、学年毎で統一すると足並みを揃えて上達すると思う。」「個別面談で前期と後期で同じ内容だったのが残念でした。」などのご指摘があった。

また、「保育者間の連携についても基本となる報告・連絡・相談の基本的な努力が必要であること。それぞれの得意分野や技術を保育にいかせる適材適所を見つけ、指導やアドバイスをしながら、保育者としての資質向上に努めていただく事を期待する。」「職員の資質向上は、より良い保育や経営上、課題となっていると推察します。研修形態も多様化している中、職員一人一人のスキルアップに繋がるような取り組みを期待します。」という激励のご意見もいただいた。また、「カトリック幼稚園と言う視点から職員の方には保育者としてのスキルだけではなくキリスト教への理解と実践も求めます。コロナ禍の中、教会行事にも参加することが制限されていましたが、今後宗教面でのスキルアップを望みます。」との意見をいただいた。

4. 『保護者への対応』に関しては、「やや不満足」から「満足」まで評価が分かれた。

昨年度同様に「園での様子、何かあった時には小さな事でも報告があり、安心出来る。」「保護者対応は丁寧でとても良いと感じる。」と情報の発信については「インスタグラムにより、園での様子がより良く伝わり楽しみに見ている。」などの評価が継続してあげられていた。

緊急連絡を今年度からメールから公式 LINE アプリに移行したことに對しても「とても使いやすい。」「見落としが少なくなった。」「SNSやLINE等の活用により迅速に、たくさんの情報発信が可能となり、園生活がより保護者に伝わりやすくなり、信頼関係も深まっているのではないかと思います。」の肯定的な意見がある中一方で、「情報が多すぎて必要なことが入ってこなくなることも・・・紙でのお知らせをLINEやアプリ等にしては。」「お休みの連絡もアプリを使って出来るようになると良い。」「機能を使い切れていない。」「感染症の注意喚起情報の中で、せめてクラスの感染状況を教えてもらうととても危機感を持たたと思います。」などのより踏み込んだ活用を希望する意見もあった。

また、家庭との連携について、「園生活や子どもの発達に対して、不安や心配を抱える親御さんに対して、一歩踏み込むという対応もあって良いと思います。子どもの未来を共に見据えていく存在として同じ方向を見ることが出来るのはその時、関わっている人たちであり、より多くの光が当てられると思います。」「保育や子どもの様子についての保護者からの問い合わせに対して連絡や連携を密にし、職員全体の課題として細心の注意を払い対応していただきたい。また保護者からの要望や苦情に対して適切な対応していただきたい。」などの要望も聞かれた。

5. 『地域社会との連携』に関しては、「満足」の評価をいただいた。

特に「園外での活動に対して良い刺激になっている。」「一年を通じ遠足やウキウキ保育など、多くの事を子どもたちは経験出来たと思います。」「これからもいろんな体験をさせて欲しい。」「留萌近郊の施設や人に触れあうことが楽しそうでした。」「自然に囲まれたこの地域で四季や自然の豊かさに触れる様々な体験をさせていただいていること、子どもたちも充実し、保護者としても嬉しくおもいます。」などの肯定的な意見が多く見られた。

年長児の給食体験は今年度月2回の実施になったが、「みんなで同じ物を食べるということが良いのか家では食べなかったメニューを“おいしかった”ということがみられ良かった。」「学校給食にも慣れ、家庭の味以外へも親しみ、食べられる食材やメニューの広がり顕著でした。年中少でもどうでしょうか。」

また、「コロナ感染症が5類に引き下げられたとはいえ、未だ【アフターコロナ】とは言えない状況が続き、インフルエンザが猛威をふるう中、出来る範囲内での地域社会との連携を行っている事は一定の評価に値する。」「地域の様々な施設や学校に足を運び、また園舎を広く開放する取り組みなどコロナ前に近いかたちで地域とのつながりを持つ取

り組みをされていることに敬意を表します。」「畜産農家訪問、学校訪問など今後も継続して取り組んで欲しい。交通安全関連の諸行事参加にあっては意識の高揚にもつながり大変評価できる。」など意見をいただきました。新たな取り組みとして「図書館ボランティアによるおはなし会を園で開いてみてはどうか。」という提案もいただいた。

6. 『研修と研究』に関しては、概ね「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

保護者の方からは見えにくい項目ではありますが、「園内研修として他のクラスを参観する。有資格者の補助の先生がメインで保育するのを客観的に参観する。違うクラスの担任と交代する。」出来る範囲での園内研修の実施。「専門職として研修は大切なものであり、なかなか大変だと思いますが時間を見つけて頑張ってください。」「開催方法の多様化で色々な内容の研修が可能になり、職員の参加への意欲の向上にも繋がっていることと思います。研究に対しては日々の業務の中で取り組むモチベーションに繋がりにくい面もありますが、職員の専門性を高めていくためにも今後必要であると考えます。」「各自の専門性を高めるための研究について具体的な研究目標を明確にし、子どもたちと向き合い、様々な体験や研修を通じ専門性を発揮していただくことを期待します。」などの意見をいただいた。

7. 『情報公開』に関しては、「やや満足」から「満足」の評価をいただいた。

「インスタでの園児の様子を公開したり、園舎開放などは評価できる。しかし、閲覧、利用しているのは在園児の保護者がほとんどなのが残念。イベント（行事）のYouTube 配信などがあれば、聖園幼稚園らしさ、良い所が多くの人に伝わるのではないのでしょうか。」「園だより、クラスだより、インスタグラムで幼稚園の様子がよく伝わりやすいものになっていて、保護者の安心に繋がっています。」「LINEにより、スピーディーに情報が受け取れるようになり、家庭での対応もし易くなった。」「ホームページも充実しており、園だより等も閲覧することもでき、興味を持った方は情報共有が可能である。」要望として「インスタ、ホームページ、園舎開放を通じて多くの情報を発信し、多くの人に園の事・園の良さを知ってもらえる内容や企画の充実を期待します。」「LINE で年間行事予定表が見られるようにして欲しい。」「入園の際に渡されるしおりに記載されていないことも多々あった。園に確認するまでもないレベルのものですが・・・。」

未就園児教室 {ちびっこ教室} 減少については、「少子化、保護者の就労による未満児からの保育園入所などの状況から減少傾向は否めないことと推察しますが、今後も聖園幼稚園の独自の手法で幼児教育の必要性や重要性を市民に周知していただきたいと期待します。」との意見をいただいた。

8. 『その他』として（ご意見をそのまま掲載しました。）

- ・園児が減少傾向にあるのを克服するために、“聖園幼稚園だからこそ”の特色・メリットが増えるといいのでは。（体育の外部講師による指導があるように、英語の外部講師とか他の園でやっていない取り組みなど）
- ・園の特色である、お祈りの様子、年少児でも静かに目を閉じて行う様子は、年中、年長児がしっかり良き伝統を受け継いでいる証だと思いつつ同時に、先生方の一貫した指導のおかげです。いつもすばらしいと感じています。
- ・先生方皆話しやすく相談やお願いもしやすく助かりました。親子共々園生活を楽しむことができました。
- ・いつも安心して子どもを通わせていただいております。先生方が、子どもたちに向き合っているように感じます。
- ・園児が少なくなってきたのは寂しいですが、何か保護者の知恵も取り入れてもっと素敵な幼稚園になりますように。
- ・園児の減少は気になるが、園の雰囲気はとても良いと思う。子どもたちが挨拶ができたり、椅子に座って話を聞くことが出来るようになったのは先生方のお陰です。
- ・一年間不安が多かったです。子どもの様子について先生からのお話もなく、もう少しリアルタイムで園での様子を知れたら良いと思いました。
- ・運動会・・・係の中で給水、トイレかかりは常に園児側に居なくても良いのでは。トイレタイム、給水タイムの時に係が園児席に出てくる形で良いと思います。
- ・聖園幼稚園の雰囲気はとても良いと思っています。ただ遊ぶだけではなく、メリハリがあって、子どもたちもそれを分かっている良いと思います。
- ・バスの運行ルートを除雪を市と連携して取り組んで欲しい。
- ・特別支援教育の充実に向けて、発達支援センターとの連携を今後も図っていただければと思っています。定期的な園見学や訪問支援、療育相談、また市域支援として預かり時間帯を利用した取り組み（直接支援や先生への助言、保護者・先生からの相談・面談など）も充実させていきたいと考えております。

6. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。

7. 次年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育（特に「いのちの尊厳」）が、子ども達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけではなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備を行う。また、各関係機関との連携を取りながら、きめ細かな教育・保育を展開して行く。
- ・小学校へのスムーズな接続と、アプローチカリキュラムの積極的かつ計画的な導入による教育の質の向上を図って行く。就学前に身につけたい事を明確にし、今後も園での取り組みだけでなく、保護者の理解・協力も得ながら進めて行く。
- ・引き続き、安全な保育環境の整備と見直し、事故・ケガの防止に最大限努める。また、防災訓練や避難誘導訓練を通して、保育者・保護者・園児が非常時に冷静に行動出来る様、その内容についても改善を図っていく。
- ・運動機能の個人差（体力の低下や筋力・体幹の弱さ）を保育者がよく理解し、引き続き、日常の保育の中で積極的に「体作り」に取り組んで行く。また、いろいろな運動を取り入れて行く事で、子ども達が飽きずに活動に取り組める様工夫する。
- ・次年度導入する給食に対して、職員間で共通の認識の元、みんなで楽しく一緒に食事をする食習慣を身に付けられよう心がける。
- ・子ども達が地域社会の一員である事を分かりやすく伝え、地域社会で生活する人々、働く人々を知る機会を積極的に設け、出来る範囲で関わりを持つ活動を展開して行く。また、引き続き「留萌」の良さを子ども達に伝えるため、体験を通して、留萌近郊の自然・施設・味覚（地産品）の素晴らしさを感じる機会を積極的に作っていく。
- ・引き続き、「いのちの尊さ」を伝える体験型保育（畜産農家の見学）の実施。また、災害や紛争によって多くの命が失われている事を、おにぎり募金の機会を通して、それぞれの年齢が理解できる言葉で伝えて行く。
- ・音楽鑑賞・芸術鑑賞などの情操教育の機会を設け、実際に子ども達が見たり、触ったりする事で、より興味・関心を深める事が出来る様取り入れて行く
- ・情報提供について保護者の要望をくみ取りながら、SNSなどを利用し、リアルタイムに発信出来る環境を整える。
- ・子育てに対する保護者の悩みや不安を真摯に受け止め、一緒に考え、子ども達の健やかな成長の手助けとなれる様、引き続き体制を整えていく。また、相談しやすい雰囲気作りを心がけて行く。
- ・計画的に園内研修を取り入れながら、保育者としてのスキルアップをはかる。各自の研究課題を明確にし、リモート研修などを利用しながら保育技術の共有や継承、連携強化の徹底に努める。また、リモート研修等を有効に活用し、保育者の専門性の習得、園全体の保育の質の向上をめざす。
- ・働き方改革を推進させる上で、職員の勤務体制の見直しやITCを積極的活用する。職場内の働き方の問題点を検証し、職員が働きやすく、やり甲斐のある職場環境作りを目指す。また、保育や行事の多角的な見直しにより、保育者一人ひとりが、心に余裕を持って保育にあたることで、子ども達に良い影響を与えることが出来る様に進めて行く。
- ・預かり保育を利用する児の保護者が、安心して子どもを預けられるよう、担当職員のスキルアップ（飽きさせない内容の見直し）や環境整備を図る。また、長期休み期間の長時間保育により、子どもの年齢差による体への負担を考慮し、無理のない保育を検討して行く。
- ・ちびっこ教室や園舎開放の体制および内容の見直しを図り、未就園児の入会の促進と、園児の増加に繋がるための地域への情報提供を積極的に行い周知を図る。